

埼玉医科大学(前期) 英語

2024年 2月2日実施

1

- 問 1. ① 問 2. ① 問 3. ④ 問 4. ① 問 5. ②
問 6. ③ 問 7. ② 問 8. ③ 問 9. ① 問 10. ①
問 11. ② 問 12. ①

<講評>

文法・語法に関連した適語補充問題。近年は B パートには語句整序問題が出題されることが多かったが、2019 年度に出題された「各英文の空所に共通して入る語を選べ」というタイプの問題が復活した。非常に基本的なレベルの問いばかりで、昨年度より易化したと言える。完答を目指したい。

問 2 は①と③で迷うかもしれない。scale down は「～を縮小する」という他動詞の用法が主である。自動詞としても用いられることもあり得るが、In order to prevent ... の不定詞句の意味上の主語を考えると、他動詞 scale down の受動態であると考えるのが妥当である。

2

- 問 1. ③ 問 2. ② 問 3. ③ 問 4. ② 問 5. ③
問 6. ① 問 7. ② 問 8. ① 問 9. ④ 問 10. ②

<講評>

学生がボランティアに参加することの意義について論じた英文。例年通り、論説文と会話文の融合問題のような形態をとっているが、実際には“According to the passage”/“According to the dialogue” と別々の問いが設置されているのみで、両方を同時に参照しなければならない問いは特にない。

問 10 は①と②で迷う。“Bill’s busy schedule” を main point とした文章であることには間違いないが、“discussing the best ways to manage” と言われると、両者でそのような議論が行われているとは言いがたい (Jon の訴えに対し、Bill はボランティアの意義を説き続けるべきだと説得しているのみで、スケジュールをどうやりくりするかということへ対する言及はない) ため、①を積極的に正答とは推しがたい。一方②は、“talking about the good and bad points of the school community service program” とあり、good point = Bill が説くボランティアの意義、bad point = Jon の訴えと考えれば、両者がそれらについて「話し合っている」とする説明には、少なくとも矛盾がない (動詞が talk であり discuss ではないので、「議論」というレベルでなくとも会話でありさえすればよいという解釈になる)。以上の議論より、正答は②が妥当であろうと結論づけた。

3

- 問 1. ② 問 2. ③ 問 3. ② 問 4. ① 問 5. ①
問 6. ③ 問 7. ④ 問 8. ② 問 9. ④ 問 10. ②

<講評>

医学研究におけるジェンダーバイアスについて論じた英文。やや医学寄りの内容ではあるが、具体例を交えながら分かりやすく論じた文章であり、問いも選択肢が日本語であるものが半分以上を占めており取り組みやすい。

問 10 は②が正答であることを否定する材料までは行かないが、「性が…」と限定的に書かれているところが気にかかる。本文では **evidence of how their drug is safe and affected by age, sex and race.** とあり、これに厳密に対応させるなら「性」だけを恣意的に抜き出して答えとするのは妥当ではない。

4

- 問 1. ② 問 2. ① 問 3. ① 問 4. ⑥ 問 5. ③
 問 6. ③, ⑥ 問 7. ② 問 8. ② 問 9. ④

<講評>

現代のデジタル健忘症について論じた英文。埼玉医科の大問 4 は、年度によっては自然科学の分野からかけ離れたテーマの文章が出ることがあるが、本年度はどちらかと言うと医学寄りかつ身近なテーマで読みやすかったであろう。

問 1：第 1 段落第 2 文参照。デジタル健忘症はデジタル認知症とも呼ばれる、とある。

問 2：result in ～「～という結果になる」

問 3：第 2 段落第 3 文参照。情報そのものよりも情報源がより記憶される、とある。

問 4：how far the reliance on technology has が正解の語順。the reliance on ～「～への依存」。

問 5：マウスのクリックと「データを記憶できない」こととの直接的な関連性、となる。

問 6：③→アメリカ人を対象とした調査結果の 3 つ目に挙げられている。⑥→インド人を対象とした調査結果の最後に挙げられている。

問 7：ヨーロッパ人を対象とした調査結果の 3 つ目、アメリカ人を対象とした調査結果の 2 つ目、インド人を対象とした調査結果の 1 つ目に挙げられている。

問 8：自分の脳に「頼らない」ことで、ニューロンの結合が「少なくなる」と考える。X には副詞なので less, Y には可算名詞 neuron connections を修飾する形容詞 fewer が入る。

問 9：最終段落第 3 文参照。科学的な現象としては未確認である、とある。

【総評】

昨年度までと比べ長文の大問が 1 つ減り、文法 1 題＋長文 3 題から成る 4 題構成であった。ただし、それぞれの文章量は増加しているため、全体として読む分量自体にはさほど変化なし。例年、最終大問は医師の目線で綴った随筆形式の文章であったが、大問 5 の消滅に伴いその類の文章も出題されなかった。制限時間に比して文章量は多めである一方、細部の読解を求めるような問題は相対的に少なめである。パラグラフごとの論旨を意識しつつ、スピーディーに読み進められたかがポイントとなったであろう。一次通過には 70%程度の得点が望まれる。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校
YMS

☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部進学予備校



☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校



☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

